



↑東の空に、色鮮やかな雲？が現る

横に伸びた虹

5月31日午前10時45分ごろ、長島から見た東の上空に水平な虹が出現しました。これは「環水平アーク」と呼ばれる現象だそうです。

環水平アークとは、大気中の氷粒に太陽光が屈折し、ほぼ水平な虹が見える光学現象です。虹などと同じ大気光象の一種で、水平弧、水平環とも呼ばれます。国内では年に数十回観測されます。

上空の氷の結晶の方向がほぼそろったときに、この結晶で屈折した太陽光により見える現象で、一般の虹が太陽とは反対の方向に見えるのに対し、環水平アークは太陽と同じ方向に、ほぼ水平に現れます。ただし、低空に雲があると見ることはできません。

